

目的 柿渋染めはアジアの伝統工芸染織であり、その染色方法は、布や紙を柿渋液に浸漬した後、日光に当てて発色させるという簡便なものである。柿渋染めには防水性と防腐性があるので、従来、衣服、傘、釣り糸などに使われた。このように、柿渋染めに関する民族学的な先行研究¹⁾は見られるが、色彩と特性に関する測定例は見当たらない。そこで、本研究では、柿渋を用いて種々繊維の試験布を染色し、その染色布の色の測定及び性能試験を行って、柿渋染めの特徴を見出すことを目的とする。

方法 市販の柿渋カラーの溶液に試験布（綿、麻、レーヨン、絹、ナイロン、ポリエステル）を浸漬した後、種々条件の加熱（30℃、70℃、100℃）と露光（日光暴露、カーボンアーク灯照射）を行い、得られた染色布の CIE $L^* a^* b^*$ を色差計により測定して色彩の変化を調べた。また、染色した綿布の力学的性質と防水性について測定を行い、露光時間による柿渋染めの防水性、力学的性質の変化を調べた。

結果 露光時間の経過に伴い、染色布の色は濃くなり、赤みと黄みが増す傾向が認められた。このような現象は加熱よりも紫外線照射による影響の方が大きくあらわれた。中でも綿、麻、レーヨンが濃く鮮やかに染色された。スプレーテスター法により調べた綿の柿渋染めの防水性は、染色されていない白布より大きく、露光時間の経過につれて増大した。引張り強度も染色されていない白布より大きいですが、露光時間の経過に伴って減少した。柿渋染めの曲げかたさは白布より大きく、露光時間が経過するにつれてそのかたさは減少する傾向が認められた。1) 李善愛：濟州島の柿渋染め、織消誌、39、34-39(1998)